

研究留学生 インタビュー

ブダペスト工科大学 助教

Salvi Péter



Q1

日本における公私に渡る生活は如何でしたか？ 経験を踏まえた上で、具体的に述べて頂けますでしょうか。

私にとって日本は第二の故郷みたいなものです。前に三年間くらい東京大学で勉強したことがありますし、その後も日本人の妻と何度か来日したことがあります。なのに、浜松で送ったこの一年は新しい経験でいっぱいでした。その最大理由は、スズキ財団に選ばれてから分かった妻の妊娠、そして去年の11月に浜松の医療センターで生まれた娘にあります。今まで触れたことのない日本の子育て文化、ママパパ教室などは新鮮で面白かったです。

研究の面では静岡大学の三浦・臼杵研究室は仕事を進めるために最適な環境で、メンバーの皆に暖かく歓迎していただきました。毎週行われている研究会も勉強になりましたし、三浦先生が他の大学の先生方にも合わせて下さったおかげで、新しい関係を築き上げることもできました。

Q2

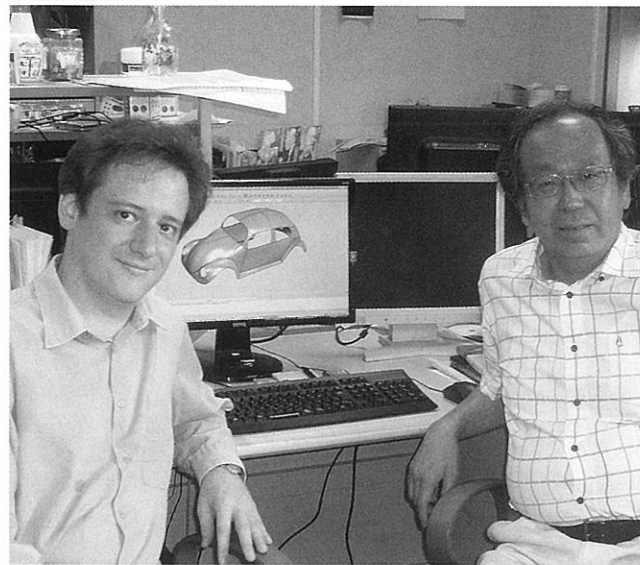
日本に滞在されて、印象深かったこと、或いは興味を感じた事柄について教えてくださいませんか？

日本人の育児に関する考え方・やり方がハンガリーのとかなり違うなあとつくづく思いました。場合によって正反対の習慣があって、少々カルチャーショックを受けました。

Q3

三浦研究室における研究内容について、具体的に教えてください。

私は日本に来る前から多辺曲面の表現法を研究していました。三次元モデリングにおいて曲面の表現法はとても大事なテーマですが、モデラーソフトの多くは四辺曲面しか対応していないのが現状です。既存の方法ではパッチの間の連続性を保つのが難しく、作ったモデルの質が落ちてしまいます。



左からペーテルさん、三浦教授

曲面を美しくするには現在デザイナーの手作業が必要になります。しかし三浦先生が開発された「対数型美的曲線」は名前のおり美しい形状を保証しています。日本に来てから先生の下でこの曲線の特徴などを勉強し、多辺曲面とつなげて美しい曲面の表現法を探しています。

Q4

将来に向けて、日本において行われた研究の成果をどのように発展させて行かれるのでしょうか？ また次なる研究の目指すべき目標は何でしょうか？

多辺曲面に関する研究はハンガリーに帰ってからも続けるつもりです。新しいチャレンジがいっぱい待っています。対数型美的曲線は非常に気に入っていて、ブダペスト工科大学で教えている三次元モデリングの授業のカリキュラムに入れようと思っています。より多くの人々に知ってもらって、その研究を私たちの研究室でも発展させていければ幸いです。

Q5

スズキ財団の公募になぜ応募されたのですか？

一言で言えば、日本が好きだからです。囲碁経由で日本語を勉強し始めたのはもう15年以上前のことです。それ以来日本の小説を読んだり、邦画を観たりして、奨学金も得て二回勉強しにきたことがあります。そうするうちに日本が自分の一部になりました。

でも、それだけでしたのなら、応募しなかったでしょう。しかし、静岡大学のホームページを開いた時、三浦研の紹介文を読んだら、「これだ!」と思いました。やっている研究があまりにも近くて、何かの縁だとしか考えられませんでした。

Q6

日本国内を旅行されたかと思いますが、どのような印象をお持ちですか？

旅行が大好きな私ですが、小さいあかちゃんがいることですし、今まであまり遠出はできませんでした。それでも研究室のメンバーと合宿で伊勢まで行って来ました。伊勢神宮について「源氏物語」で読んでから一回行きたかったのよかったです。

そして娘がそろそろ七ヶ月になるので、帰国する前に勇気を出して沖縄に行ってくるつもりです。

Q7

日本における実際の生活と来日前の日本のイメージに大きな違いは感じなかったのでしょうか？

浜松が思った以上に国際的でした。どこ見てもスペイン語・ポルトガル語の看板があつてビックリしました。病院や役所、店などにはよく外国人対応のスタッフまでいます。これはやはり私の知っていた日本のイメージとは大分異なっています。

Q8

日本の生活でこれは困ったというようなことはなかったですか？

日本の生活はもうなれていて、困ることはあまりなかったです。もともと日本は親切で住みやすい国だと思います。

Q9

研究の傍ら、日本の学生或いは日本人の方々とどのような交流を行いましたか？

英語を練習したい静大生が集まるESS (English Speaking Society) に他の外国人と一緒に通ったりして、何人か日本人と知り合いました。それよりも子供のおかげでママ・パパ友も何人かできました。

Q10

ハンガリーと日本ではどのような文化的違いがありましたか？ また具体的にどのような点にそれを感じましたか？

共通点を探した方が難しいかもしれません。今回特に研究室の構造やメンバーの上下関係がそれを強く感じさせました。

Q11

大学の国際交流についてどのような意見を持っていますか？

授業などは直接に経験していませんが、外国人は大勢見かけます。日本語の授業もあるみたいで、いい環境だと思います。浜松国際交流会館でも学期が始まる時に日本人の学生が外国人新入生のためにパーティー開いたりしてくれて、団結力もあるようです。

また、「アジアブリッジ」というプログラムのおかげだと思いますが、静大にアジア各国からの学生が多くて、まさか日本でインドやインドネシアの友達ができるとは思っていませんでした。

Q12

スズキ財団による国際交流の支援に関してのご意見を頂けますか？

日本に来る前から日本・ハンガリー両側からの手厚い援助に加え、私の都合でわざわざ時期まで半年ずらしていただきました。本当に申し分のない待遇で、何回か学会にも行けました。大変お世話になりましたので、この場を借りて改めて感謝の意を表したいと思います。



スズキ歴史館にてハヤブサに乗って記念撮影